2022（令和4）年度　入学試験問題

東大・医進クラス　2月1日　AM

国語

注意

(1) 指示があるまで表紙を開かないこと。
(2) 問題および解答用紙の両方に受験番号・座席番号を記入すること。
(3) 声を出して読まないこと。
(4) 解答は全て解答用紙の所定の欄（らん）に記入すること。

受験番号	
座席番号	

※問いに字数指定がある場合は、句読点なども一字として数えます。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

たいした足音も立てていないのに、足元の蛙が田んぼの中に逃げこむ。小さな水音が、踏みつけていく畦道の脇で続いている。ようやく緑がかってきた苗の間のぱしゃっという音は、ドジョウが泥の中に潜る音だ。水音のした辺りだけが濁っている。

一年生になったばかりの稔は田んぼに飛びこむ蛙をおもしろがって、どしんどしんと跳ねて遊んでいる。小学校の東門まで、コウゾウはそんな稔の後から、朝露の残る畦道の草を踏みしめて重い歩みを続けている。その朝のコウゾウには、はしゃぎ回る弟の稔がAわずらわしく思えてならなかった。

きのうもそうだったが、今朝も母親のキヌエに五時に起こされた。祖母のキヨもキヌエも、田植えに出かけるところだった。コウゾウたちが「本宅」と呼んでいる忠明さんの家の新田の田植えが、やっとできるようになったのだ。

朝飯が、囲炉裏の脇のちゃぶ台の上に用意してあった。

「晩飯はきょうも、忠明さんのとこでよばれろ」

コウゾウはキヌエの言葉を①まだはっきりしない頭で聞いた。ああ、と起き上がったとき、外に出ようとしていたキヨが振り返った。

「学校は何時終いだ」

「三時半だ、何でぇ」

コウゾウの頭はまだ目覚めておらず、掃除の後の帰りの会が終わる時間を、つい正直に答えてしまった。

「ほんじゃ、まだ陽が高いな、晩飯よばれるだけじゃ悪いがら田んぼに来て手伝え」

田んぼの手伝いと聞いてはっきり目が覚めた。もういちど、何でぇーと言って、布団から出た。

「何でっちゃあんめ、本宅の田植えだも、当たり前だんべ」

キヨの話には何かにつけて、本宅が出てくる。キヨは小学校を終えるとすぐ、忠明さんの家で住みこみで子守やら、家の中の仕事をするようになり、やがてそこで作男をしていた祖父と一緒になった。結婚した後、ふたりは畦道を隔てた場所に家を建ててもらって住みはじめた。それ以来忠明さんの家が「 I 」になった。

コウゾウも母親のキヌエも、本宅を持ち出されると、しかたがないと思ってしまう。

「どうしてもげ、かあちゃん」

何も言おうとしない母親のほうに向き直った。
「田んぼに入れるかっこうしてくればいかんべ」
キヌエはコウゾウにこっそり片目をつぶってみせながら、ひとごとのように言った。来さえすればかっこうがつく、と言っているのだ。キヨには悟られなかった。
「まっすぐ、田んぼに来んだぞ」
そう言うとキヨは出ていってしまった。
「遊んでたって、かまねがら」
キヌエが小さい声で言って、キヨを追っていった。
遊んでたってと言われても、ほいほいと喜んで出かける気にはなれない。手伝いに来るのがいくら隣近所の知っている人だけだといっても、おとなたちばかりの中に子ども二人は居心地が悪い。
それにきのうの夜のことが頭から離れなかった。②かっとなって、箱膳と食器を放りだしそうになった場面がまだ頭にこびりついている。
「ほら、いつまでも邪魔してちゃ悪いがんべ、自分が食ったもんは、流しへ運べ」
忠明さんの家で晩飯を御馳走になり、息子の忠雄さんがつけたテレビを見ているときだった。土間の端の流し台に立っていたキヨは、コウゾウと稔をにらみつけてそう言った。
忠雄さんがコウゾウたちのために、画像のはっきりしない一〇チャンネルに回してくれて、『新七色仮面』が映しだされたばかりだった。白黒の画面が揺れて落ち着かない。上下に四、五本の線が行ったり来たりしている。ようやくそれにも慣れて、七色仮面が大映しになったとき、かぶさったキヨの声でセリフが聞き取れなかった。
忠明さんの家でなかったら、キヨに悪態をついていたはずだ。ちゃぶ台くらい蹴飛ばしていたかもしれない。コウゾウの顔色が変わったのを見て、忠雄さんが間に入ってくれた。
「これが終わるまでいかんべや、おばやん」
忠雄さんはキヨのことを「おばやん」と呼び、キヨは忠雄さんのことを「ぼっちゃん」と呼んでいる。
「ぼっちゃん、かまわねどごれ、それでなくてもみんなもあした早いんだがら」
キヨのひと言で、忠雄さんは黙ってしまった。
上がり縁に座ったきり動こうとしない稔の脇腹をつねって、コウゾウは先に立ち上がった。テレビを思い切ったつもりだったが、やはり気になって、何度か振り返った。稔がようやく立ち上がったが、持とうとした箱膳をキヨに横取りされて、これ幸いとばかりまたテレビに釘付けになった。

流しにはキヌエがいた。忠明さんの家の、ひと抱えもありそうな大釜で米を研いでいる。
「ほら、ここで顔と足洗って、先に寝てろ」
大釜を脇に寄せて、キヌエが立ち上がった。井戸ポンプの腕を持って、コウゾウがズボンの裾をまくるのを待っている。
足に水をかけてもらい、顔を洗って、キヌエが腰にはさんでいた手ぬぐいで顔をふこうとしたとき、忠明さんの奥さんのおヒサさんがやってきた。
「風呂に入っていけばいかんべや」
コウゾウたちが風呂に入らないつもりなのを、察したらしかった。
一日おきにもらい風呂をしている身では、家族の人より先に入るなんてできないことだ。もう、稔でも分かっている。
「子どもらは、どうせ[B]カラスの行水なんだから――」
大丈夫です、とキヌエが笑って言った。コウゾウもつられたように笑ってみせた。
「でも、まあだ水は冷たがんべよ」
奥さんにきかれて、コウゾウは思い切り首を横に振った。足にかかる水は冷たかったが、すぐに乾いて、もう皮膚はぽっぽとほてっている。
「③コウゾウも遠慮深くなって、すっかりおとなだなや、キヌエさん」
「そんなごとねえって、まあだ寝しょんべんたれのガキだわ、なあ」
と、キヌエがからかった。からかわれているのは分かったが、奥さんにそう思われてしまうのは嫌だった。
「そら、稔だ」
コウゾウがそう言ってその場を離れた後、奥さんのもうしわけなさそうな声が聞こえた。
「田植えに来てもらってるだけでありがたいのに、うちのことまでしてもらったら、すまなかんべよ」
キヌエが研ぎおえた米のことを言っている。
「いやあ、子どもらまで食わしてもらってんだから、すまないのはこっちのほうです」
キヌエの大きい声は少しもすまなそうには聞こえなかった。家で言っていることと違うからかもしれない。「おばやんは何でも本宅なんだから……」と、キヌヨにつっかかっていくのはいつもキヌエのほうだ。
「おっらもすぐ帰っから――」
キヌヨがそう言いながら、帰っていく近所の人の箱膳を重ねて運んできた。

母親と祖母が頼まれたわけでもないのに、家の人よりも一生懸命働いている。先へ先へと仕事を見つけては片付けていた。

コウゾウはどっかり囲炉裏の縁に座って酒を飲んでいる忠明さんと、ここのほかには電器屋と製材所にしか入ってないテレビを食い入るように見ている稔とを見比べて、少しだけ下唇をかんだ。

「帰るぞ、稔」

そう声をかけて、忠雄さんたちに、

「ごちそうさまでした」

と言ったとき、④目頭がつんとした。

忠雄さんがコウゾウを引き止めるように、七時からの番組のことを言っていたが、コウゾウは振り返らずに、外に出た。NHKの『バス通り裏』は製材所の事務所で見たことがあった。

畦道の蛙を脅かしながら、稔はかなり先を行っている。けれどコウゾウには、追いつこうという気力さえわかなかった。学校も面倒くさくなってくる。雨が降ると決まってだれかとけんかをしてしまうコウゾウを、「雨の日は、コウゾウが狂う」と、六年一組の同級生がこそこそ言っていることまで、C脈絡もなく思い出した。

空を見上げた。雲一つなく晴れ渡っている。今度は手伝わなければならない田植えのことが頭をよぎった。ちぇっと舌を鳴らして、思いを振り切るように走りだした。

走ってくるコウゾウに気がついて、田んぼを見ていた稔が顔を上げた。

（高橋秀雄『地をはう風のように』による）

※作者の表現を尊重し、原文のまま記載してあります。

問一　〰〰線A～Cの本文中の意味として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

A　わずらわしく
ア　不真面目でゆるしがたく
イ　めんどうでいやに
ウ　ややこしすぎて不快に
エ　わざとらしくてはらだたしく

B　カラスの行水
ア　洗い方が下手でよごれが落ちず黒いままであるさま
イ　さわがしくはしゃぎながら風呂に入るさま
ウ　めったに見かけないことであるさま
エ　よく洗わずにすぐに風呂を出てきてしまうさま

C　脈絡もなく
ア　何の前触(まえぶ)れもなく
イ　間髪(かんぱつ)を入れず
ウ　前後のつながりなく
エ　何から何まで残さず

問二　――線①「まだはっきりしない頭で聞いた。」とありますが、「はっきりしない頭」である理由をわかりやすく説明しなさい。

問三　[I] に入る語を本文中から探し、漢字二字で抜(ぬ)き出(だ)して答えなさい。

問四　――線②「かっとなって、箱膳と食器を放りだしそうになった」とありますが、それはどうしてですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア　自分たちはおとなたちの中で居心地が悪いのをこらえているのに、キヨがそれを理解せずしかってきたから。
イ　これから晩御飯（ばんごはん）の食器を片づけようと思っていたところだったのに、キヨが片づけろと言ってきたから。
ウ　せっかく忠雄さんが『新七色仮面』を映してくれたのに、キヨが邪魔してはいけないと言ってきたから。
エ　忠明さんの家でしか観られない『新七色仮面』を楽しみにしていたのに、キヨが邪魔してきたから。

問五　――線③「コウゾウも遠慮深くなって」とありますが、（一）コウゾウは何を遠慮しているのですか。（二）それはどうしてですか。それぞれわかりやすく説明しなさい。

問六　――線④「目頭がつんとした。」とありますが、この表現の説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　自分たちと本宅の人たちとの立場の違いを感じさせられ、思うようにふるまえないことにみじめな思いがわきあがってきている。
イ　頼まれたわけでもないのに本宅の人たち以上に一生懸命に働いている母と祖母の姿が、かわいそうで見ていられなくなっている。
ウ　家族がそれぞれ懸命に働いているのをわかっているのに稔だけテレビに見入っていることに、いらだちを隠（かく）せなくなっている。
エ　一番の楽しみだったテレビを自分だけ見ることができず、明日の学校で友人との話についていけなくなることを残念に思っている。

問七　――線「その朝のコウゾウには、はしゃぎ回る弟の稔がわずらわしく思えてならなかった。」とありますが、時間的にこの場面に続くのはどこからですか。最も適切なものを次のア～オから選び記号で答えなさい。

ア　きのうもそうだったが、今朝も母親のキヌエに五時に起こされた。
イ　それにきのうの夜のことが頭から離れなかった。
ウ　流しにはキヌエがいた。
エ　「帰るぞ、稔」
オ　畦道の蛙を脅かしながら、稔はかなり先を行っている。

問八　この小説の登場人物の説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　コウゾウは命令ばかりするキヨ、自分勝手な稔、自分をからかうキヌエにいらだちながら、兄として模範的（もはんてき）に行動しようと心がけている。
イ　キヨは本宅の人々に長らく恩を感じているため、忠明さんや忠雄さんの言うことには決して逆らうことなく、一生懸命に働いている。
ウ　キヌエは何よりも本宅を優先させるキヨに納得しきれない点があり、本宅で率先して働きながらも、コウゾウの気持ちにも理解を示している。
エ　忠雄さんは幼いながらテレビをがまんして仕事を手伝うコウゾウに深い同情を示しており、いつでも味方になろうとしてくれている。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

動物が、環境の中でなんらかの反応をすることが必要な状況に直面すると、その状況に対して適切な行動をスムーズにとれるように、からだの中ではさまざまな生理的な反応が自然に引きおこされて、からだ全体の状態がその反応に向けて最適な状態に準備されます。

［　Ⅰ　］、目の前においしい餌を見つければ、舌なめずりをしながらむしゃぶりつこうとするでしょうし、こわい敵にとつぜん出会えば、毛を逆立てて攻撃しようとするか、身がまえて逃げだそうとするでしょう。

これらの、主に自律神経系のはたらきなどによる生理的な反応を、広く一般的に①「情動反応」といいます。喜怒哀楽などの基本的な感情は、これらの情動反応にともなってわたしたちのこころのうちにわきおこる精神状態のことだ、と一般にはばくぜんと考えているのではないでしょうか。つまり「悲しいから泣くのではなくて、泣くから悲しい」のだ、とよくいわれますね。

ここでは、動物が直面した環境の「ある状態」を科学的に分析したり、記述したりすることができます。また、それに対する神経や筋肉の応答などの、からだの「生理反応」も計測し記述することができます。［　Ⅱ　］、それにともなう感情という「こころの状態」は、物理的には計測することがたいへん困難です。つまり、②感情とは、わたしたちがある情動に反応して行動をするときに対応する、環境―からだ―こころをつなぐ一連の現象の全体のようすに対して、ばくぜんと定義された背景状況に対応したこころの状態、としてとらえることもできるでしょう。

このような感情の背景をかたちづくる情動反応については、その生成の一連の過程の、脳神経科学的、生物学的なメカニズムについて、これまでに多くのことがわかっています。なぜこれが科学的に明らかになっているかというと、③この情動反応にかかわる、原因―過程―結果をつなぐすべての現象が、物理化学的に計測することができる自然現象だからです。また、これらの生体反応の時間的フレームが、わたしたちが直接に日常生活の中で知覚できる程度の時間感覚の中におさまっている、いわば等身大の現象だからでしょう。そして、そのときどきに適したさまざまな行動を引きおこすための、からだの内部状態の「かまえ」あるいは「準備のしかた」のパターンが、一連の情動反応としてさまざまに分類されているのです。

これらが、いわゆる喜・怒・哀・楽として知られている原始感情、あるいは一次感情に対応することになるのです。［　Ⅲ　］、感情とは、脳神経系をふくむからだの情動反応「主に自律神経反応」の総体に対してばくぜんと名づけられたものと考えてもいいでしょう。それはまだ、いわゆる④人間特有のこころのはたらきをかならずしも想定しなくとも理解できる、生理的現象であるともいえます。この、情動反応を引きおこす脳神経メカニズムについては後の節でくわしく説明しますが、その前に、それらの性質についてもうすこしくわしく考えてみましょう。

わたしたちは、このような喜・怒・哀・楽を、よい感情・悪い感情、正の感情・負の感情、好ましい感情・いまわしい感情、というようにばくぜんと種類分けしているのではないでしょうか。

しかし、情動反応の本質が、動物がその場での最適な行動をおこすためにからだの状態を［Ⅳ］することにあるならば、このような現象は、たとえばアメーバなどのごく下等な生物からでも観察することができるはずです。そしてそこでの「状態」の性質は、それを引きおこす環境の性質そのものだけではなく、環境とそこにおかれた生物の状況との関係性によって決まる、引きおこされるべき行動の性質によることになるわけです。このように感情が、ある環境状態における生体の反応のしかたであるならば、その「価値」は「その動物がその場で生きのびることにとっての有利さの程度」以外にはありません。

ここで、すべての生体反応は、生物進化の過程で何世代にもわたる長い時間をかけて、すこしずつ適応的に選択されて獲得されてきたものであるとすると、［Ⅴ］にとって積極的に不利になるような反応は、長い進化の過程のどこかで淘汰されているはずなので、生き残り戦略のうえで不利になるような機能は残りえないことになります。したがって、そこには「より正しい」「よりよい」ものがあったとしても、負や悪といったマイナス方向への価値はとうていありえないはずではありませんか。

にもかかわらず、⑤人間の一般的感覚としては、正負／善悪／好嫌のような区別が明らかにあります。それはなぜなのでしょうか。

ここでもういちど、ある環境にのぞんだときの生物の基本的な行動・態度のパターンについて、よく考えなおしてみましょう。ある生物が外界のある状況におかれたときとる行動は、（そこにとどまって、ぼーっとしたまま何もしない、というような特別な場合以外は）基本的には、そこから「逃げる」「避ける」「退ける」といった忌避行動をとるか、「近づく」「認める」「とりこむ」といった接近行動をとるか、に大きく分けられると思います。つまり、敵がくれば逃げるでしょうし、食べものがあれば食べにいくでしょう。そして、この状況に直面したとき、これらの行動がスムーズにとれるように、からだの状態が準備するわけです。

このような反応は、ごくかんたんで原始的な単細胞動物からでも観察されます。これは動物が生きていくうえでいちばん基本的な行動だからです。そこでさて、わが身にかえってこのような場合を想像してみると、わたしたちはなんらかの「感情」をいだいているのに気づくのではないでしょうか？　逃げたり退けたりすべきものは、こわくていやでむかつくでしょうし、近づいて食べたりしたいものは、魅力的で好ましくうっとりするでしょう。

このときわたしたちは、前者には悪や負といったレッテルをはり、後者には善や正のラベルをつけ、あるいは無邪気にそのように「感じる」のでしょう。両方ともに、環境を生きぬいていくための必要性や意義といった、その「価値」については同じなのですが……。

（入來篤史「情動と感情」による）

問一　［　Ⅰ　］～［　Ⅲ　］に入る語として最も適切なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

ア　あるいは　　イ　しかし　　ウ　たとえば　　エ　つまり　　オ　なぜなら

問二　――線①「情動反応」とありますが、これに**あてはまらない反応**を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　梅干しを見たときにだ液が出る反応
イ　嫌（きら）いな虫が飛んできたときに鳥肌が立つ反応
ウ　熱いものに指が当たって引（ひ）っ込（こ）める反応
エ　大事なコップが割れて悲しくなる反応

問三　――線②「感情とは、わたしたちがある情動に反応して行動をするときに対応する、環境―からだ―こころをつなぐ一連の現象の全体のようすに対して、ばくぜんと定義された背景状況に対応したこころの状態」とありますが、筆者が感情について説明したこの状態を具体的に述べたものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　毛を逆立てて攻撃する
イ　悲しいから泣く
ウ　泣くから悲しい
エ　神経や筋肉の応答

問四　――線③「この情動反応にかかわる、原因―過程―結果をつなぐすべての現象が、物理化学的に計測することができる自然現象」とありますが、「物理化学的に計測することができる」とはどういうことですか。解答欄の「…ができること。」に続く形で、――線③よりも前の部分の言葉を用いて、四十字以内で二点説明しなさい。

問五　――線④「人間特有のこころのはたらきをかならずしも想定しなくとも理解できる、生理的現象であるともいえます。」とありますが、どういうことですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア　喜・怒・哀・楽のような感情は、他の複雑な感情と異なる原始的で生きていく上で一番基本的な身体的現象と言える。
イ　喜・怒・哀・楽のような感情は、人間特有とは限らず、他の動物を観察しても同じく観察できる現象と言える。
ウ　脳神経系を含（ふく）む自律神経反応は、複雑な身体構造を持つ人間特有の反応で、特に知覚に関する現象であると言える。
エ　脳神経系を含む自律神経反応は、からだに関する原始感情と心に関する一次感情に無意識に分類される現象と言える。

問六　［Ⅳ］・［Ⅴ］に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　Ⅳ：準備　Ⅴ：生存
イ　Ⅳ：準備　Ⅴ：進化
ウ　Ⅳ：反応　Ⅴ：生存
エ　Ⅳ：反応　Ⅴ：進化

問七　――線⑤「人間の一般的感覚としては、正負／善悪／好嫌のような区別が明らかにあります。」とありますが、筆者は区別がある理由をどのように考えていますか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア　正と負や善と悪のように対立する感覚は情動反応として単純で、進化の過程でも残りやすいものであるから。
イ　環境を生きぬく行動のなかには、意義や必要性があっても好ましく感じるものと好ましくないと感じるものがあるから。
ウ　計測できる生理反応に対し、感覚の元になる情動反応は計測できず、プラスとマイナスの方法で区別しているから。
エ　下等生物から人間へ進化するには、正負や善悪のような高度な区別をする知能が不可欠な条件だったから。

問八　次のア～オについて、本文の内容と合うものにはA、合わないものにはBを書きなさい。

ア　動物は状況に応じて適切な行動をスムーズにとれるような生理的な反応が引きおこされる。
イ　環境や神経や筋肉の応答は計測できるが、こころの状態はばくぜんとしており計測が困難である。
ウ　下等な生物のとる忌避行動とは、対象にマイナスの感情を抱いた結果としてからだが準備したものである。
エ　生物が相手を嫌って避ける行動と好んで近づく行動とは、環境を生き抜くために必要で価値あるものである。
オ　わたしたちが悪や負と見なす行動は生きる上で価値のない行動、善や正と見なす行動は価値のある行動と言える。

【三】次の問いに答えなさい。

問一　次の文の「から」と同じ使い方をしているものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

その料理は、やさしいから誰にでも簡単に作れる。

ア　本が面白かったから最後まで一気に読んだ。
イ　大人から子供までみんなが夢中になる番組がある。
ウ　昨日のお昼ごろから雨が降り続いている。
エ　君から何を言われても考えは変えない。
オ　だからこそ僕は説明する必要がある。

問二　次の文の主語、述語を一文節で書き抜いて答えなさい。

誰にも見向きされなかった私たちの研究は大きな成果を残したのだった。

問三　次の□にア～オのいずれかを入れてことわざ・慣用句を完成させるとき、**一度も使わないもの**を一つ選び、記号で答えなさい。

柳に□折れなし
浅き□も深く渡れ
□降って地固まる
焼け石に□

ア　雨　イ　川　ウ　雪　エ　海　オ　水

問四　次の□にア～コのいずれかを入れて類義語を完成させるとき、①～④に入るものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

安直（ゆうきゅう）＝①②
悠久＝③④

語群

ア　高　イ　適　ウ　永　エ　歴　オ　期
カ　平　キ　曲　ク　短　ケ　遠　コ　易

問五　次のア～エの文の順序を整えて意味の続きがはっきりした文章にするには、どのような順序にすればよいですか。はじめから順に記号で答えなさい。

ア　ハーブを煎（せん）じたハーブティーは別ですが、緑茶、紅茶、ウーロン茶はもともと同じお茶の木から作られます。
イ　お茶には、緑茶をはじめ、紅茶、ウーロン茶などがお店に並んでいるのを目にします。
ウ　お茶の葉を摘（つ）んだ後の酸化や発酵（はっこう）の度合いの違（ちが）いにより、色や風味に違いが生じるのです。
エ　私たちの生活のなかで最も親しまれている飲み物のひとつにお茶があります。

【四】次の①～⑩について、――線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

① 危うく寝過ごすところだった。
② 外科の医師にあこがれる。
③ 熱で悪寒がする。
④ 北海道に転居する。
⑤ 在宅勤務が続く。
⑥ 夕方にガイトウがともる。
⑦ 国語ジテンで調べる。
⑧ 今日のエイギョウが始まった。
⑨ ジツギ試験と学科試験。
⑩ ゴール前でセり合いになる。

解答用紙

2022（令和4）年度

国語

東大・医進クラス 2月1日 AM

受験番号	
座席番号	
得点	

【一】

問一
A
B
C

問二

問三

問四

問五
（一）
（二）

問六

問七

問八

【二】

問一
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ

問二

問三

問四
・ ができること。
・ ができること。

問五

問六

問七

問八
ア
イ
ウ
エ
オ

【三】

問一

問二
主語
述語

問三

問四
①
②
③
④

問五
↓
↓
↓

【四】

①	⑥
うく	
②	⑦
③	⑧
④	⑨
⑤	⑩
	り

解答用紙

2022（令和4）年度

国語

東大・医進クラス 2月1日 AM

受験番号	
座席番号	
得点	

【一】

問一 A イ 2 / B エ 2 / C ウ 2

問二 朝早く起こされて、完全に目覚めていなかったから。 4

問三 本宅 4

問四 エ 4

問五 (一) 風呂に入ること。 3

(二) もらい風呂をしている自分たちは、本宅の人よりも先に風呂に入れないと思っているから。 5

問六 ア 3

問七 オ 3

問八 ウ 3

【二】

問一 Ⅰ ウ 2 / Ⅱ イ 2 / Ⅲ エ 2

問二 エ 3

問三 ウ 3

問四 動物が直面した環境の「ある状態」を科学的に分析したり、記述したりすること。 4

環境に対する神経や筋肉の応答などの「生理反応」を計測し記述すること。 4

問五 ア 3

問六 ア 3

問七 イ 4

問八 ア A 1 / イ A 1 / ウ B 1 / エ A 1 / オ B 1

【三】

問一 ア 4

問二 主語 研究は 2 / 述語 残したのだった 2

問三 エ 4

問四 ① カ 2 / ② コ / ③ ウ 2 / ④ ケ

①②…完答 ③④…完答

問五 エ→イ→ア→ウ 4

【四】

① あやうく 1 / ② げか 1 / ③ みかん 1 / ④ てんきょ 1 / ⑤ ざいたく 1

⑥ 街灯 1 / ⑦ 辞典 1 / ⑧ 営業 1 / ⑨ 実技 1 / ⑩ 競り 1